

<もくじ>

<別紙> 「7～10 月予定表」・「6/2 植樹祭新聞記事」

- ★ ごあいさつ 1
- ★ 開催予告! 「新病院・いのちの森づくり植樹祭」10/27 3
- ★ 「時ノ寿の森夏まつり」開催ご案内 4
- ★ 福島県川内村への「植樹祭・応援ツアー」参加者募集 5

★ 近況報告(時ノ寿ブログより)

- 5 月 19 日「チーム時ノ寿が始動」 6
- 6 月 2 日「1400 人による感動の植樹」 6
- 6 月 3 日「市民主体の森の防波堤づくり」 8
- 6 月 5 日「大植樹祭の反省点」 8
- 6 月 20 日「想定外・大型台風上陸」 9
- 6 月 29 日「視察者からうれしい声届く」 10
- 7 月 8 日「幼なじみ」 11

<ごあいさつ>

去る 6 月 2 日、「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト」の第 1 弾「森の防波堤づくり植樹祭」が開催されました。地元市民をはじめ国内各地から 1400 人が集まり、5000 m²の防災林に 15500 本の土地本来の広葉樹が植樹されました。その光景は壮観で見事でした。この植樹祭を指導いただいた横浜国立大学名誉教授・宮脇昭先生は、東日本大震災の尊い教訓として「日本列島の海岸線を『いのちの森』でつなごう!」と、政府をはじめ関係機関に提起されています。今回の掛川市植樹は、その構想のモデルと位置づけ、開会式での宮脇先生の植樹指導も、通常より力がこもっていました。何度も何度も、「今回の植樹は、今までに一番厳しい条件です。リーダーが本気にならないければ苗木は育ちません。絶対に失敗できないので、リーダーの皆さんよろしく頼みます。」とおっしゃられていました。世界の宮脇先生に、ここまで本気にご指導いただける掛川市は、幸せ者だと思いました。

松枯れにより「はげ山」となった防災林が、1 時間後には土地本来の広葉樹の苗木で緑に包まれ、公園のようになりました。1400 人のうち、浜野地区や三浜地区、大坂地区など地元の住民の皆様が 400 人以上も参加してくださったことが、何よりもうれしかったこと

でした。これから3年間は、苗木の成長をみんなで支えてやる必要があります。ご参加いただいた地元の皆様には、今秋から始まる草刈り、つる切りなどにご協力いただきたいと思います。

おわりに、規模・使命いずれもわがNPOにとっては未経験の大植樹祭でしたが、クラブ員の皆様をはじめ企業や各種団体、また全国各地から駆けつけてくれた「まじえる会」の皆様など多くの皆様のご支援のお陰で、無事に終了することができました。感謝申し上げますとともに、来年秋まで続く「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト」に、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。



開催予告

10月27日！「新病院いのちの森づくり大植樹祭」 ～2万3000本の大植樹祭にぜひ参加してください！～

現在掛川市内では、全国で初めてのケースとして掛川市と袋井市にある自治体病院を統合した新病院「中東遠総合医療センター」の建設が行われています。20万人の両市民が大きな期待を寄せる新病院は、来年5月開院をめざしていますが、この大プロジェクトを行政と市民が一体となって成功させるため、両市と両市民総参加による「新病院いのちの森づくり大植樹祭」を開催することとなりました。

生命を守る病院にこそ、土地本来の木による本物の「いのちの森」が必要なのです。いつの日か、人々が心身の健康を崩して病院を訪れたとき、自分の手で植えた「いのちの森」の木々は、きっと元気をくれるに違いありません。もちろん、この植樹祭も宮脇昭先生が指導してくださいます。

2万3000本という大植樹祭を成功させるためには、クラブ員の皆様をはじめ多くの方々のご参加がなければ成功しません。どうぞ、ご支援をよろしくお願いいたします。

写真は、宮脇昭先生が事前調査に来られたときに「必ず成功させるぞ！」と、みんなで証拠の写真を撮ったものです。



8. 19 時ノ寿の森・夏まつり！

～ 森を満喫して、カラダをリフレッシュ ～

時ノ寿の森は、クラブ活動のお陰で豊かに蘇りました。植物も小さな生物も、再生された森林で生命を謳歌しています。顔を撫でる森の風、手のひらを流れる谷川の冷水は、子供から大人まですべての者のDNAを研ぎ澄ましてくれるに違いありません。

皆様それぞれに、楽しい夏の計画があることと思いますが、今年の夏は、ぜひ時ノ寿の森に来て下さい。日ごろの感謝をこめて、クラブ員やご家族の皆様をお待ちしています。



<と き> 8月19日（日）午前10時～午後3時

<ところ> 森の駅「時ノ寿」 （電話）0537-28-0458

<飲食満喫コーナー> 多少の変更あり

生ビール・オーブンカフェ・流しそうめん・焼きとうもろこし・ピザ・
スイカ割りほか

<自然満喫コーナー> 多少の変更あり

森林散策・水遊び・虫取り・沢ガニ探し・昼寝・ほんやりほか

<参加料>

大人1000円・子ども（4歳以上）500円

***当日チケットをお買い求めいただきます。**

<参加申込>

準備の都合がありますので、7月31日（火）までに事務局（松浦）まで参加人数等を電話でご連絡ください。

<宿泊予約>

遠方の方で、前泊や当日泊を希望される場合は、参加申し込みの際にお申し出ください。寝具・食事など実費をご負担いただきます。

福島県川内村「いのちの森づくり植樹」応援ツアー

～ 川内のみなさんの応援に、みんなで行きましょう！

原発事故が及ぼす過酷な現実を知りましょう！ ～

東京電力福島第一原発事故で全村移転していた川内村は、今年4月帰村宣言し、人々は復活をめざしてがんばっています。「時ノ寿の森」と「川内村」は、震災前から「いのちの森づくり」を通じて交流が始まりました。今年で3回目となる「川内・いのちの森づくり植樹」が成功するよう応援隊として福島へ出かけます。

<と き> 9月16日(日)・17日(月・祝)

<ところ> 福島県川内村

<参加定員> 15名

<交通手段> マイクロバス

<参 加 費> 宿泊・食事代実費（当日徴収します。）

<日 程> * 時間等は予定です。

16日：掛川 AM5:00 出発 ～ 川内へ AM12:00 着

到着後は日没まで植樹準備作業、村内に宿泊

17日：植樹祭スタッフ参加

終了後川内を出発 ～ 掛川 21:00 着

<参加申込> 7月31日(火)までに事務局(松浦)まで電話でお申し込みください。

申込者には、後日詳細スケジュールをお送りします。

*** 下の写真は、昨年9月25日にクラブ員3名が応援に行ったときの様子です。**



＜近況報告＞ （時ノ寿ホームページ・ブログより）

2012 年 5 月 19 日(土)

チーム時ノ寿が始動

遠州灘海岸にほど近い大浜地区
防災林は、真夏のような日が照りつ
けた。今日 19 日、チーム時ノ寿は
「森の防波堤づくり」のための活動
を開始した。「時ノ寿の森」の気候
風土が体に染みついているクラブ
メンバーたちにとって、海辺の照り



つける太陽とともに「はげ山」状態の砂防林での作業は結構きつかった。それでも、10名のクラブ員が集まってくれた。大プロジェクトへの会員の使命感に心から感謝を申しあげたい。5000㎡を超える防災林は、数年前からの松くい虫被害が著しく、かつて白砂青松の景色も、いまや無残な状態に化してしまっている。わが時ノ寿の森クラブの提唱する「森の防波堤づくり」は、このはげ山の状態にある防災林を土地本来の広葉樹の力強い森に再生し、予想される東海地震で万一大津波が襲ってきたら、その津波のエネルギーを防災林による「森の防波堤」で減衰しようというものだ。

しかし、管理されていない防災林の中は、水源地域の荒廃した森林と同様に、つる性植物にウバメガシやトベラ、ヤブニッケイ、タブなどの広葉樹は成長を阻害され、松枯れだけでなく広葉樹も枯れ始めている。このような状態の防災林の土を作り、そこに土地本来の広葉樹の苗木を15000本植える。

森を作る基本は、地盤だ。明日も9時作業開始だ。クラブ員諸君、応援をよろしく頼むよー！

2012 年 6 月 2 日(土)

1400人による感動の植樹

「いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト」が、本日静岡県掛川市でスタートしました。

第1回目の植樹は、松枯れ状態にある海岸防災林5000㎡に延べ15000本の苗木を植えるという大植樹祭です。心配していた天気には恵まれましたが、1000人という大勢の参加者を募集していたので、参加者数が最大の不安でした。そんな主催者の不安は、開会式30分前には吹っ飛んでしまいました。



開会式会場にあふれた参加者の数は、スタッフを含めて1400人と推定しましたが、それを上回っていたかもしれません。

共催の松井掛川市長は、東日本大震災被災地を実際に見て来られ、地元市長から聞いた話を教訓として「掛川市における喫緊の課題である津波対策は、先人の築いた防災林の再生を、市民と行政が一体となって実施することです。」と、力を込めてあいさつされました。

また、このプロジェクト全体を指導いただく宮脇昭・横浜国大名誉教授は、いつも情熱的に希望あふれる話をされますが、いつよりも増して、「いのち」を守るための土地本来の森林の必要性、そして津波のエネルギーを減衰させる広葉樹の森を海岸につなげていくことの重要性を言及されました。さらに、掛川市にある10kmの海岸への「森の防波堤づくり」を、掛川市長に何度も何度も訴えておられたことが印象的でした。

集まった1400人の人々は、宮脇先生の熱い話を聞かれて、従来にも増して森林再生への理解度が高まったのではないかと、今後の掛川市の森づくりの広がり期待をしたいと思います。

面積5000㎡、苗木15000本の植樹。私たちNPOにとって、ここまで大規模な植樹は初めての経験でしたので、午後も翌日も残った作業を覚悟していましたが、宮脇先生の指導を早朝から受けた50人を超える植樹リーダーたちの指導力のお陰と、参加者たちの熱意のこもった植樹作業により、なんと1時間ほどで植えてしまいました。厳しい評価の宮脇先生も、植え終えた状態に満足されていました。

あらためて、膨大なエネルギーを必要とする森林再生には、多くの人々の参加が大切であるということを確認いたしました。これから来年秋まで続く静岡県掛川市の「いのちの森づくり」に対し、地元の皆様はもとより全国の心ある皆様のますますのご支援をよろしくお願いいたします。

2012 年 6 月 3 日(日)

市民主体の「森の防波堤づくり」

「森の防波堤」構想は、宮脇昭先生が昨年の東日本大震災直後から、国に働きかけて来られました。しかし、当初の反応は誠に鈍いものでしかなかったようです。ところが最近では、野田首相をはじめ行政や政治家の人たちが、宮脇先生の提唱する「森の防波堤」構想をいろいろな思惑から賛同し、被災地の東日本でもこの構想が実験されています。



昨日、静岡県掛川市で開催した「森の防波堤づくり植樹祭」は、NPOが市民とともに主役となり、行政・関係機関・民間企業が応援して実現したものです。したがって、昨日の参加者 1300 人、またスタッフ 100 人という規模は、とても意義があると思います。特に、防災林のある地元自治会や周辺自治会の住民が 400 人を超えて参加してくださったことには、感謝と共に住民の皆様の意識の高さに心から敬意を表したい気持ちです。

植樹した 15500 本の苗木が、しっかりと地に根を下ろし、強風にも耐えていってくれるように、向こう 3 年くらいは夏草刈りや風除けなど芽を掛けてやりたいと思います。ぜひ、地域住民の皆様のご参加もお願いしたいと思います。

2012 年 6 月 5 日(火)

大植樹祭の反省点

先日の「森の防波堤づくり植樹祭 in 掛川」は、参加者・スタッフ合せて総勢 1400 人と、わがNPOにとっては初の大植樹祭でした。短期間での準備であったため、不行き届きな点多々あり、参加者のみなさまにはさぞかしご迷惑をおかけした事と存じます。皆



様の寛容なお気持ちのお陰で、混乱やクレームもなく、そして事故なく無事に終了出来ました。心から参加者の皆様に感謝申し上げます。

今晚、NPO理事会を開催し、今回の大植樹祭の反省点を各理事から出してもらい、次回以降の植樹祭に活かして、参加者の皆様により一層ご満足いただける「いのちを守る『希望の森づくり』植樹再にしたいと思っています。

何と言っても反省点の第一は、1000人を超える大勢の参加者を募る場合は、当日のオペレーションについてあらゆる想定をし、状況に応じて臨機応変の対応が、スタッフ共通に出来るようにしておくことが大事だということでした。

それにしても、今回はスタッフの事前打合せの不足の中で、よくも1400人の大植樹祭を無事に成功させられたと思います。クラブ会員をはじめ掛川市職員、田旗造園建設社員、まじえる会会員各位によるチームワークのお陰です。あらためて、関係者の皆様に心からお礼申し上げるとともに、まだこれから続いて行く植樹祭に対してご支援をよろしく願いいたします。

2012年6月20日(水)

想定外・大型台風上陸

まだ6月というのに、早くも台風4号が東海地域に上陸した。中心気圧965ヘクトパスカル・中心付近の最大風速は35mで最大瞬間風速50m、さらに梅雨前線を刺激した予想降雨量は400ミリというから風・雨ともに猛烈な勢力を持った大型台風である。何という異常気象だ。



掛川市でも、夕方の帰宅ラッシュ頃には強い風と雨で、駐車場の車まで行くにも傘はさせないほどであった。時速70キロでつむじ風のように過ぎ去ったが、夜半前のピーク時には市内の各所で洪水・土砂災害の危険が高まったため避難勧告が出され、さらに広範囲で停電が発生した。幸い、夜半前には風も雨も小康状態となり、避難勧告も解除されたが、停電は翌日まで続いた。

市内では大きな被害はなかったようだが、昨年秋の台風に続いて今回の猛烈な風水害は、今までの経験を超えた降水量や強風を記録し、今後に大きな不安を抱かせた。私た

ちにとっては、もう一つ最も危惧する事がある。先日2日に植樹した海岸防災林の苗木15500本の生育にとって、今が一番重要な時期であるが、雨はいいにしてもこれほどの強風が吹き荒れては、海の塩が苗木にへばりついてしまう。梅雨の前の最高の時期を選んだつもりだったが、宮脇先生がおっしゃったとおり、今回の植樹は大変厳しい条件下にあることは間違いないということを痛感した。

本日も、15500本の苗木の点検に出かけ、散水によって葉っぱにへばりついていいる塩分を洗い流した。この苗木が根付いて背丈ほどに育つまでには、まだ多くの自然の試練を超えて行かねばならない。

植樹に参加した皆さん、ぜひ苗木を見守ってください。そして、時々立ち寄って目を掛けてやってください。人間と一緒に、皆さんが立ち寄ってくれば、苗木も元気を出してくれるに違いありません。

2012年6月29日(金)

視察者から嬉しい声届く

先週末に時ノ寿の森を訪れた市民講座「まちづくり塾」生の皆さんから、森林再生に取り組む「時ノ寿の森クラブ」に対して、うれしい言葉をたくさんいただきました。

活動を始めてもうじき満6年になりますが、30有余年放置されて荒れ果てていた森林を、ひたすら再生を目指して間伐、植林、下草刈り



に汗と泥まみれの奮闘を続けて来てくれたクラブ員たちを癒し、励ますにはこれに勝るものではありません。このブログを通じて、届いたいくつかの声を掲載します。

「活動に対して熱い想いを強く感じた」「仕掛けづくりが良いと思った」「思いを実行し、継続されている事に感激」「とにかく自然を守るんだという思いが素敵」「大変な事も大変と思わず、生き生きと森を守る生き様がとても素晴らしい」「とてつもなく大きな仕事に立ち向かっている方々の姿に感動しました。何らかの形で協力して行きたい」「一つの事を成し遂げて行くための行動には学ぶことが多くあった」「森林の再生、

循環型社会をめざした熱い思いが理解できてとても良かった」「山間地の復興に力を注いでいる方の話が聞けて良かった」「ナショナルトラストという構想の可能性にとっても興味を持ちました」「所有者だけではどうにもならない森林の荒廃をNPO主導で保全するという手法が参考になった」「静かな熱い想いを感じました。派手な活動ではないと思いますが、人としてとても大事なことをされており、学ぶことも多くありました」

その他にもたくさんいただきましたが、私たちの活動にあたたかなエールを送ってくださいました塾生の皆様に、心から感謝を申し上げます。

2012 年 7 月 8 日(日)

幼なじみ

ふるさとの森を豊かに蘇らせたくて森林再生活動を始めて、かれこれ十数年になります。自然を守っていくには一人の力では及ばないと気付き、任意団体を発足し、多くの人々の賛同を得ることができて6年になります。この間、地元の人々の理解と協力とともに、社会の幅広い方々から物心両面のご支援のお陰で、今日のNPO法人時ノ寿の森クラブの活動があります。

今日も、小雨の降る中を、クラブ員8名・子ども含む家族4名が時ノ寿に来てくれて炭焼きをしました。顔中真黒になりながら、出来上がった木炭を梱包し、また次の炭焼きを始めました。原木詰め、窯焚き、じっくりと楽しみながら炭焼きをしたいのですが、仕事現職のボランティアたちにとって週末が勝負なのです。午前10時過ぎから、みんなで力を合わせて燃し続けた結果、日没までには炭窯に火を本格的に付けることができました。

真黒になりながらも充実感に浸り、山を下りてきたところ、途中細い山道で対向車と鉢合わせました。山道では、お互いが道を譲り合うのがマナーです。私の車をそっと退避所に除けると、相手の乗用車の中から「成夫君じゃない!」と声をかけてきたのです。対向車の車中に目を凝らすと、昔ふるさとの森や谷川で一緒に遊んだ幼なじみの姉妹でした。もう何年も会っていない懐かしの再会でしたので、車から降りてしばらく懐かし



い会話が弾みました。姉妹は、私たちの活動を新聞やTV、ホームページで知っていて、「読むたびに感動しています」と、感謝の言葉を語ってくれて、私は胸を熱くしてしまいました。

ふるさとへの熱い思いは、私だけではなく、廃村という苦い経験をした人々は共通の思いであるということを痛感しました。「幼なじみ」はいいものです。そして、ふるさとは永遠に人々の心に生きているものだと思います。幼なじみのKさんとHさん、またゆっくりと時ノ寿の森を訪ねて来て下さい。